



箕面市新稲にて

花といえは、日本では奈良時代から平安初期までは梅の花を指しましたが、それ以降は桜の花を指すようになりました。美しいことや生命力に溢れていることを、「華がある」と言い、その場合は「花よりも華」と言う漢字を使います。また、東の間の栄華や散りゆく美しさ、散り際の潔さを表すこともあります。

「桜の国」と言われる日本には、ヤマザクラや大山桜、大島桜、深山桜、嶺桜などが野山に自生しています。奈良県の吉野の桜はヤマザクラですが、毎年、桜の開花予想の基準となる桜の品種はソメイヨシノで、栽培されている割合も多く、「桜」の中で最も一般的な品種となりました。

桜の図柄を使ったものは数多くありますが、身近なところでは、百円玉。表に桜の花がデザインされています。

春雨に 争ひかねて わが宿の

桜の花は 咲きそめにけり

(万葉集)

「春雨がせかすように降るので、我家の庭の桜は花を咲かせ始めました。」